

大学の世界展開力強化事業（平成27年度採択）事後評価結果

| | |
|-------|------------------------------|
| 大 学 名 | 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校 |
| 整理番号 | L-1 |
| 事 業 名 | 「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム |

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

| | |
|--|--|
| 総括評価 <b style="font-size: 2em;">A | 事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。 |
| コメント | <p>本プログラムは、中長期的に国際人材の育成と留学生の日本就職までを見据え、インターンシップや企業との連携協力も含め、日本とアンデス諸国の双方のニーズを満たすべく戦略的に実施したものである。</p> <p>運営体制に関しては、多言語が使える教職員の採用や山形大学が主催するFD事業「FDネットワーク“つばさ”」の実施などを通して教育体制の充実が図られている。また、学内の運営委員会、南米協定校6校との担当者会議において、関係大学間の情報共有やプログラムの改善に努めること、外部有識者3名を含むアドバイザリーボードを設置し、プログラムの評価と助言を受けるなど、プログラム全体として質の保証を伴った大学間交流の枠組みの形成に注力している。また、海外相手大学と日本側の採択大学との短期派遣・受入交流に関しては、参加学生に対して事前に約1年間のスペイン語もしくは日本語の講座の履修を課したことにより、交流プログラムの効果的な推進に寄与しており、学生交流の数値目標を上回る派遣・受入の実績を上げている。短期プログラム参加学生に対する1年間の語学教育を含めた準備指導、インターンシップを含んだ教育内容、受入れ中の学内連携の支援体制及び就職まで見据えた協力など、組織と連携して事業が実施された結果であり、メンター、チューター等の人的整備やペルーのサテライト・オフィスの整備等、教育環境の整備においても日本語教師兼任の常勤職員を配置することによって、派遣・受入双方の学生に対してきめ細かな支援がなされた結果と評価できる。その他にも、国際人材の育成に向けて、外国語教育の拡充、情報リテラシー教育の必修化に取り組むことにより、海外留学の拡充を目指すとともに、人文社会科学部の改組、大学院の改革・再編により、大学全体の国際化が進められている。情報の公開と成果の普及についても、ウェブサイト을3カ国語で発信することが継続的に行われている。</p> <p>一方、ペルー・カトリカ大学とのダブル・ディグリー制度については、できるだけ早い実現に向けて引き続き努力されたい。</p> <p>最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、さらなるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。</p> |